



鈴木 貞正 議員

# スポーツ施設の 支援策は

**問** 現在当市のスポーツ施設を見ますと、県他の市町村に劣らないすばらしい施設が多くあります。全市民が進んで利用活用しなければ何なりません。スポーツを通し、健康づくりができれば健康増進また体力向上、健康で明るいまちづくりにもなる。我が国は、人生80年時代の長寿国となり健康管理の大切さが益々重要視され、スポーツは健康維持増進に欠かせない特効薬だと思ふ。施設利用問題全般について何うが、まずは、子どもから高齢者まで市民が活用しやすいスポーツ施設とする方策について何う。

**答** スポーツ施設の整備については利用者の利便性や機能向上を計る。スポーツを通した



10月にオープンした南相馬パークゴルフ場（鹿島区）

交流人口の拡大や、子供から高齢者までの市民がいつでも利用できる屋根付き全天候型について何う。

**答** 現時点では国県などからの財源の確保は困難である。

**問** 供用開始から、多くの市民が利用されているが、一方で、コースの難易度を求める意見が寄せられているが

パークゴルフ場の現状と課題について何う。

**答** 利用者は、想定以上ある。本施設は、設計から施工、備品購入まで関係機関からのご意見を頂き、市民が利用しやすいよう整備して参りました。今後利用者との満足度が得られるよう努力する。

**質問を終えて**  
農業は将来が難しい真暗闇だという話が多いが夢を持ってやる前向きな姿勢が必要だ。

### その他の質問

- 1 農産物の風評払拭に向けた取り組みは
- 2 有害鳥獣対策について
- 3 農業後継者の育成対策について



竹野 光雄 議員

# 浦尻貝塚史跡公園 整備事業は

**問** 東日本の縄文時代を代表する浦尻貝塚を史跡公園として整備するとしてきましたが、震災後事業計画が休止していることから、今後どのように進めていくのかお伺いします。

**答** 市民検討会を発足させ、平成29年度には新たな基本計画を策定して、地形測量、発掘調査を行い、平成31年度に実施設計を行い、平成32年度には整備工事に着手して行く計画としています。

**問** 整備後は、子供達の教育、体験学習、また展示施設整備等、子供から大人まで地域に集い、そして散策ができるような施設であるべきだが、今後の計画の進め方について何う。

**答** 史跡整備指導委員会の指導等を受けながら、今後



早期整備が求められる浦尻貝塚（小高区）

### 若年層U・イターン者支援について

**問** 少子高齢化状況の中、震災後多くの若者が南相馬市を離れ、他の地域へ就職しています。少しでも戻っていただく支援策が必要と考えるが、市の見解を何う。

ら、今後も市民とともに教育や観光などへの活用も見据えながら地域の再生に資するよう、事業内容の再構築を行う考えです。

**答** 本市における人手不足の解消に向けては、避難者の早期帰還を初め、特に若年層の方々へ、U・イターンを促し、市外の方々へ情報提供を行い、早期帰還及びUターンに結びつける若年者限定の事業を実施してまいります。

**質問を終えて**  
旧避難指示区域も解除から半年が経過したが、今後安心・安全の生活基盤作りが重要だ。

### その他の質問

- 1 営農再開に向けた取り組みについて
- 2 避難指示解除後の生活支援について
- 3 小高インターチェンジについて

## 一般質問



今村 裕 議員

# 避難指示解除後の課題解決策

**問** 避難指示解除後の人口推移と今後の見通し、転居者数を伺う。

**答** 震災前の住民登録人口は1万4千281人だったが、本年11月18日現在1万461人であり、3千820人減少した。平成32年の居住人口は、約5千人と見込んでいる。尚、震災後の区域外への転居者数は、3千774人である。

**問** 戻らない要因を、どう捉えているか伺う。

**答** 避難先での仕事や就業、新築やリフォーム等、住宅確保の状況、更にスーパードクターや医療機関・介護施設等の生活インフラの整備状況、加えて放射線への不安等が主な要因と考える。

**問** 92人中58人、中学校で89人中65人となっているが、どう分析しているか伺う。

**答** 長期にわたる避難生活で、各家庭の事情により難しい判断をしたものと考えられる。今後も魅力ある学校づくりを努めていく。



再開間近の小高中学校見学会

**問** 今後の市民説明会のあり方について伺う。

**答** 市民説明会は半年に1回行うが、より多くの市民の皆様と丁寧

に懇談する為、行政区座談会やふれあい懇談会等も開催していく。

**問** 本庁と区役所との連携強化策について伺う。

**答** 行政課題の解決に向け、全庁で情報を共有する。また、本庁と区役所の役割を補完しあいながら、一体となって取組んでいく。

**質問を終えて**  
震災から間もなく6年。一日も早く、ふるさとを取り戻す！住み続けたい町づくりが急務！！

### その他の質問

**1** 自治体交流のあり方について

**2** 台湾との交流について

**3** 空き地・空き家バンクの活用について



渡部 寛一 議員

# 避難支援の継続を

**問** 20km圏外住宅無償提供継続させよ

**問** 市内の避難指示が全域（実質）で解除されて5カ月になる。「なんでもない地域、被災者ではないので支援策は終了」の姿勢が、東電、国はもとより、県にもありありと出てきている。

**答** 20km圏外に住んでいる方の仮設住宅・借上げ住宅の無償提供を来年3月末で打ち切るとしている。対象世帯数と人数はいかに。

**問** 市は、全市民に避難を呼びかけた。帰る時くらいはそれぞれの意思を尊重すべきであり、最後まで避難市民に寄り添うべきだ。第一、第二原発とも

**答** 1千860戸だが、人数は定かではなく3千人〜5千人かと。

に油断できる状況ではない。子どもの学校の区切りで悩んでいることも多い。

**問** 住宅無償提供は最後の命綱です。

**答** 9月市議会で継続を強く求める請願を全会一致で採択しています。市議会の意思ははっきりしており、県は来年3月打ち切りを

やめるべきです。市長は、県に対して住宅無償提供継続を強く求めて実現させるべきです。

**答** 補助制度での支援に代わります。生産年齢人口減少が課題だ。できるだけ帰還し、復興に寄与していただきたい

**質問を終えて**  
避難支援に冷たい市政で、人口を増やそうとする。あべこべではないか。

### その他の質問

**1** 20km圏内の住宅支援は再来年3月

**2** 県復興公営住宅入居申込みは門前払い

**3** 人工透析できない。緊急対策を



大半が避難者の借り上げアパート